

藩学の必修科目「武田流騎射流鎗馬」

～日本に二流派のみ残る正統古武道～

講師

武田流騎射流鎗馬 第45代(竹原家14代) 宗家師範
竹原宇治宿禰浩太 惟愛氏

本日は、流鎗馬の由来/武田流と系譜/礼法(作法)/流鎗馬式/射手装束などについてお話ししたいと思います。

実践編

講座のはじめは、起立、礼の稽古!

やってみよう! 細川流礼法による
一指二礼二拍手一礼一指!!

メは、みんなで騎射ポーズ騎射体操を体験!



<流鎗馬(有職故実(ゆうしょくこじつ)の教えに則る)の由来>

弓の道には「歩射(ほしや:一般的弓道)と「騎射(きしや:馬上で弓を射る)がある。騎射三物(流鎗馬・笠懸・犬追物)の代表格の流鎗馬は「天下泰平・万民息災・五穀豊穡」三つを祈願して三つの的を射るもの。武道としての流鎗馬は、源氏の流れを汲む肥後の武田流(細川家)と小笠原流(幕府:徳川家)によってその正伝が護持されている。

<武田流についてと系譜および竹原家>

流鎗馬:1100年前貞純(さだすみ)親王から源氏七代に伝承後、武田流流鎗馬・小笠原流両派に分派。

1. 武田流(細川流)は弓術(歩射)/馬術(騎射)/礼法からなる弓馬軍礼故実(きうばぐんれいこじつ)の流派で若狭武田家の信直(のぶなお)から細川藤孝(とうこう)を介し家臣の竹原惟成(これしげ竹原家初代)に直伝、家臣の竹原家が宗家師範として一切を継承。

2. ①竹原家は騎射・礼法教授も担当。「弓馬軍礼故実」の伝統は、竹原家以外には他言無用、一子相伝として口伝。②竹原家は阿蘇大宮司の一族に由来して歴代宗家師範が「惟(これ)」を名乗り「家業を生業にしない」の家訓も伝わる。③初代竹原少左衛門惟成(藤孝・忠興・忠利三代に仕える)以後、④6代竹原勘十郎玄路惟親(かんじゅうろうはるみちこれちか:幕府礼法小笠原流等の弓馬故実書から家伝の伝書を整理(今日の武田流流鎗馬の基盤))12代竹原文正(小笠原流とともに天覧流鎗馬を実施)、13代竹原陽次郎惟賢(これかた:2002年に私費で稽古場:幽玄館道場建築。2006年「やぶさめ少年塾」開塾)、⑤14代(武田流騎射流鎗馬第45代)竹原浩太惟愛(2022年6月「家督の儀」にて宗家師範襲名)に続いている。

天覧流鎗馬 昭和16年4月(東京代々木練兵場)

<細川流礼法について>

武田流礼法は流鎗馬とともに竹原惟成が「弓馬軍礼故実」の伝統の一切を継承し代々竹原家が伝承。

- ①竹原千喜(ちき:11代妻)が明治から昭和初期まで「細川流礼法」を伝承・教授し、
- ②その後、竹原操子(12代妻)が指導、竹原恵子(13代妻)が有志とともに幽玄館道場にて稽古実施。
- ③礼法(作法)は、相手に対する尊敬の心・温かい心配り・ものを大切丁寧に取り扱う等のゆかしい心を形に美しい流れで表されたもの。

<流鎗馬式>

流鎗馬式では天長地久式とは異なる神頭矢を使用。的は三ヶ所で約三十間(54m)毎に置き、馬が全長約210mの馬場を約20秒で駆け抜ける間、武者姿の射手は手綱を放した状態で射を行うので相当の熟練/胆力が必須



<天長地久式>

「天長地久の儀」は騎射に先立ち神前で行われるもので、左に3回右に2回馬を乗り回した後、呪文(宗家師範のみ伝授される)を唱えながら天と地に弓矢を満月にしほり「天下泰平/五穀豊穡/万民息災」を祈念する武田流独特の儀式。



出水神社流鎗馬奉納

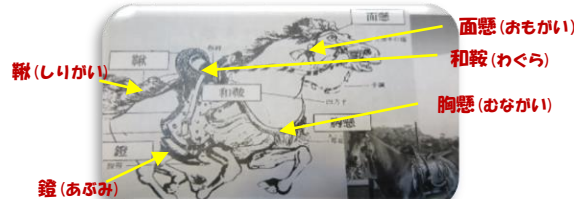
(毎年春秋大祭奉納行事) 御祭神に縁深い武田流が奉仕

水前寺成趣園 350年祭流鎗馬 熊本市中央区



<流鎗馬における馬装と射手装束>

馬装は、和鞍に三懸(さんがい) <面懸(おもがい:馬の顔につけて銜(くつわ)を固定させるための緒)、胸懸(むながい:鞍の後方ずれ防止馬具) 鞆(しりがい:馬の尾の下から後輪(しずわ)の四緒手(しおで)にかける緒)>と鐘(あぶみ:鞍の両側にあり騎乗時に足を乗せる)>をつける



射手装束(武士の狩装束)は、鎧直垂(よろいひたたれ)を着て、腰に行囊(わかばき)・足に射沓(いぐつ)・左に射籠手(いごて)・弾(かかけ)をはめ、右手に鞭をとり頭に網代笠(あじろがさ=鬼笠:おにがさ。下に笠下烏帽子(かしたえぼし)をつける)を戴く



今回の講座は、武田流流鎗馬・礼法について先生のやさしく丁寧なお話の合間に、礼法/騎射体操などで体を動かす実践体験もあって、みなさん笑顔で古式伝統を楽しく学ぶことができたと思います。有難うございました。

(くまもと県民カレッジ広報ボランティア HK作成)

